

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道57号 瀬田拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：熊本県菊池郡大津町大字瀬田 至：熊本県菊池郡大津町大字吹田	延長	3.1 km		
<b>事業概要</b> 一般国道57号は、大分市を起点として熊本市を經由、宇土半島から島原半島に渡り諫早市に至る、総延長205 kmの主要幹線道路である。 瀬田拡幅は、渋滞の緩和を目的として、現道2車線を4車線に拡幅する延長3.1 Kmの事業である。					
<b>事業の目的、必要性</b> 当該区間は、観光地阿蘇の入口に位置しており、県内外からのマイカー等による観光客が集中し、交通渋滞が発生するため、沿線住民の生活に支障をきたしている。 この道路整備により、阿蘇地域と熊本市圏が安全で円滑な4車線の道路で結ばれ、走行性の向上や交通渋滞の緩和、交通安全性の確保、物流の効率化、観光による地域活性化に大きく寄与する事業である。					
全体事業費	39億円	計画交通量	26,800台/日		
<b>事業概要図</b> 					

**関係する地方公共団体等の意見**  
 「国道57号整備促進期成会」（会長：大津町長）より、国土交通本省、九州地方整備局に対し、例年整備促進の要望が行われている。

**事業採択の前提条件**  
 ■ 便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.3	総費用：44億円 （事業費：30億円 維持管理費：14億円）	総便益：144億円 （走行時間短縮便益：132億円 走行費用減少便益：10億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年：平成18年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 3.0 (交通量 -10%)	B/C= 3.6 (交通量 -10%)	
		事業費変動	B/C= 3.1 (事業費 +10%)	B/C= 3.5 (事業費 +10%)	
	事業期間変動	B/C= 3.2 (事業期間 +20%)	B/C= 3.3 (事業期間 +20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	渋滞損失時間の減少が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 現道区間 11.8万人時間/年 削減量 8.6万人時間/年(現道区間:11.8→3.2万人時間/年) 【1kmあたり渋滞損失時間】 現道区間 2.1万人時間/年	
		事故対策	○	事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】 単路部 117件/億台Km年(現況) [熊本県平均比 2.44倍] ※ 熊本県平均 48件/億台Km年	
	社会全体への影響	歩行空間	○	歩道が新たに整備され、安全な歩行空間が形成される。	
		住民生活	◎	交通混雑の緩和により、地域住民の移動円滑化が図られる。	
		地域経済	◎	交通渋滞の緩和により、観光客数の増加が見込まれる。 (ミクロード入口交差点から阿蘇ファームランドまでの所要時間が31分短縮。 [45分→14分：観光期ピーク時]) 農産品の流通の利便性が向上 (大きな市場である熊本、福岡への流通の利便性が向上する。)	
		災害	-	注目すべき影響はない	
環境	○	走行性向上により、CO2排出量の削減や騒音の低減が図られる。 (CO2削減便益:0.02億円/年、騒音削減便益:0.01億円/年)			
地域社会	◎	主要な観光地へのアクセス向上 国際的な観光拠点である阿蘇地域へのアクセスが向上する。(観光入込客数1600万人)			
事業実施環境	○	「国道57号整備促進期成会」から積極的な要望活動が行われており、地元の期待も大きい。			

採択の理由

費用対便益は3.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
 この道路整備により、阿蘇地域と熊本市圏が安全で円滑な4車線の道路で結ばれ、走行性の向上や交通渋滞の緩和、交通安全性の確保、物流の効率化、観光による地域活性化が図られ、その整備効果は高いものと判断される。  
 以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。